

No.4

# むこスタ News Letter



2019.09.28.saturday

向日市ふるさと創生推進部 企画広報課



## <ガイドコース第1回> ガイドとは●●の達人？

9月28日(土)に開催したガイドコース第1回目は「観光学入門」「着地型観光とは」、「ガイドとは●●の達人」「魅力的なまちをカタチにするには？」の4つのテーマについて、講師の森さんからお話をいただきました。

これまでのガイドとは異なり、今求められるガイド、これから求められるガイドについて、わかりやすく、また、熱心にお話いただき、参加者はもちろん、私たち市の職員にとっても、深い学びにつながりました。



## 「観光とは」を学び「ガイド」のあり方を考える

比較的歴史の浅い、学問としての「観光学」。その語源となった「光を観る」という意味をあらためて考えると、向日市の何が光なのか、また、光をどう当てるのかということを考える必要があります。「観光を通して地域と観光客との交流を生み、地域の活性化につなげる」という観光学の考えにあるとおり、「着地型観光」の重要性が高まっている昨今、「まちの良さを発信する人こそが宝である」とお話をありました。そして、発信する内容より、発信する人の表情や服装、会話の速さやトーンなどが聞く人に影響を与えるというお話をがあり、参加者は自己紹介を題材にしたコミュニケーションレッスンを行いました。

## ✓ 1分間自己紹介

自己紹介の基本は「5Wの法則」です。

1 Who 名前(ニックネーム)

2 What 所属・職業

3 Where どこで

4 When いつから

5 Why なぜ

です。

そのうち「Who」「What」「Why」を使った自己紹介に挑戦しました。



行政の観光振興担当は、とかく「こんなないところがありますよ。」というように、資源=場所のチカラに頼ったPRをする傾向にあります。ですが、高度経済成長期に盛んになったマス戦略による観光誘客が下火となり、FIT(個人旅行)や

オーダーメイド型観光が主流となりつつある現在、何が旅行者に満足を与えるのか、何が「刺さる」のか。答えはやはりその地にいる「ヒト」なんだと思います。「ヒト」のチカラと「場」のチカラ、これらがひとつになって、さらに、私たち行政と

市民のみなさんもひとつになると、まちがよりよくなる。そんなことを確認したガイドコース第1回目でした。

